# かごしま　NIE実践校

図書室で新聞に目を通す生徒

## 名瀬中学校（奄美市）

# 20分以内で記述挑戦

実践校として3年目。土曜授業の朝の時間に新聞記事の感想を書き、周囲と見せ合う「名中タイム」を計7回実施した。本年度から160～200字以内の字数制限を設定。制限時間20分で記事を読みこなし、いかに自分の意見を文章化できるか全校生徒で取り組んだ。他人と読み比べて、視野を広げる狙いもある。

題材にする記事は、新型コロナウイルスや人種差別、奄美大島の身近な話題などさまざま。数行しか書けなかった生徒も次第に問題点を捉えて記述できるようになった。図書室で新聞を手に取る光景が増えた。

本年度は国語だけでなく、社会など教科の枠を超えた取り組みも模索したが、新型コロナに伴う休校のため断念した。担当の大脇輝希教諭(27)は「学校全体で新聞に触れる機会を増やし、世の中に目を向け、考えを伝える力を養いたい」と話した。（藤﨑優祐）

新聞記事を読み、社会情勢を学ぶ児童

## 青葉小学校（霧島市）

# 時機捉えて社会学ぶ

社会や国語、理科の授業に新聞記事を取り入れる。6年2組は、紛争や災害など世界規模の課題解決を学ぶ社会科の授業で、新型コロナウイルス下で30億人がせっけんで手を洗えない現状を伝える記事を活用。児童それぞれが国際協力に向けた考えをまとめた。

担任の黒岩正一教諭(42)は「新聞は教科書にないタイムリーな社会情勢を学べる。事実やデータを基に、自分の意見を主張する論理的な表現力も身に付いてきた」と手応えを語る。

実践校2年目。月1回、朝の15分を「NIEタイム」に充てる。地域の特産品など身近な記事を紹介したり、「若い目」欄の感想を書いたりと、学年で統一した活動を継続。読解力や書く力を養う。校内4カ所に新聞閲覧台を設けている。

NIE担当の佐々木耕喜教諭(58)は「物事を多面的に見る力を付けてほしい」と話す。（濵田朋美）